

平成 26 年度 信州アカデミア（信大 COC 事業）

地域志向研究支援 成果報告書

（平成 27 年 4 月 27 日）

研究課題名：松本女子師範附属小学校「川井訓導事件」の国際的検証：
持続可能な文化的発信力と道德教育

応募枠：

指定課題…（細目（ 中山間地問題 文化芸術とまちづくり 環境共生 ）
提案課題

研究者（代表）

氏名：高柳充利
所属部局：教育学系
職名：准教授
支援金額：400,000 円

<研究の背景と目的>

大正 13 年に松本女子師範学校附属小学校（現在の信州大学教育学部附属松本小学校）で起きたいわゆる「川井訓導事件」（修身科の時間に国定教科書以外の資料を使用したことで教員・川井清一郎が辞職に追い込まれた事件）は、長野県内のみならず国内において、日本の道德教育史の重大事件として広く知られている。独自教材を使用して子どもたちの人格形成を図った川井が直面した困難は、今日の長野県において、地域に根ざした文化的発信力を育成しようとする際の教育的課題と重なるところが大きい。

そうした重要性をもつ川井については、信州教育の体現者としての教育史的（歴史）研究はなされてはいるものの、その今日的な思想・哲学的意義について論じたものは少ない。また、海外の研究には全くといっていいほど

発信・交流がなされていないのも事実である。ローカルから直接グローバルにつながることで地域の活性化に必要な現代にあって、信州教育の先駆者を国際的な研究の議論へと導入することは喫緊の課題であるといえる。そこで本研究では川井が試みた道德教育を今日のかつ国際的な視点で再検討を試み、地域に根ざした哲学的思考という無形文化財を、文化都市松本の市民とともに再活性化させることを目指す。

<研究の新規性・独創性と地域志向>

国家規模の画一的教育・文化振興に傾きがちで現代日本の趨勢のなか、松本地区をはじめとする特色ある地方都市からも東京へと若年層の頭脳と人材が流出している。そこで、本研究において、無形文化財としての哲学的思考の価値を再考することで、松本地区の持

続的な文化的発信力の基盤となる地域で活躍する人材育成の振興に寄与する。大正自由主義教育の時代から受け継がれる、地域に根ざしつつ哲学的に生き方を問う伝統を、現代的・国際的視点議論から再活性化させ、シンポジウムの開催・国際学会での発表・研究報告の作成を通して実践・検証し、若者が知的刺激を感じながら暮らし続ける文化都市の継承・発展のモデルケースを提起する。

＜研究の方法＞

松本女子師範学校附属小学校の文化的伝統を受け継ぎつつ、今日の松本地区の教育活動を牽引している、附属松本小学校の教員に、川井訓導事件の遺産をどのように再考し、今日の市民との対話に活かしていけるかについて聴き取り調査を行った。また、戦後、同校の教育実践の理論的支柱の役割を果たした思想家・木村素衛について、国際的な思想研究の視点を有する研究者の参加のもと、研究会を開催した。その上で、海外の教育関連学会の中で最も国際色が豊かで、かつ高い信頼性を得ている英国教育哲学会にて、川井訓導事件と現代の道德教育について発表し、世界の最前線の研究者と意見を交流させた。さらに、同校4年生の「総合的な学習の時間」にて、児童・保護者・教師・教育学部教員が参加し、「附属松本小109年の歴史」とのシンポジウムが開催され、川井訓導の教育実践はじめ、同校と地域の思考の伝統と特質が多面的に取り上げられた。こうした取り組みの成果は、信州大学教育学部研究論集第8号掲載の研究報告（偉人伝と道德教育との関連を、小学校4年生の事例から検討）での考察に発展的に反映された。

＜研究の結果（成果）＞

本研究を通し、以下の3点が確認された。
(1) 信州大学教育学部附属松本小学校の多くの教員は、松本女子師範学校附属小学校以来

の伝統に高い関心を寄せていて、その教育活動は松本市とその周辺地域の文化的伝統に密接に結びついたものであること。(2) 同校の教育実践の中心的な関心事として、道德教育への取り組みがあり、それが自己の生き方や地域社会のあり方といった課題に向き合う上での重要な役割を果たすものであること。(3) 同校の取り組みは、地域の無形文化財としての哲学・倫理的思考という観点において、同校の周辺地域のみならず、全国的かつ国際的な関心を集め得るに足る可能性を有するものであること。

＜研究成果の地域への活用＞

地域資源の価値付けや活用方法といった事項をめぐる議論に、「地域資源をどうやって活用するか」に先立つ視点、すなわち、「何を地域資源とするか」との観点を提起することができる。具体的には、人の生き方、社会のあり方といった無形の文化的背景に目を向ける契機の提供である。

＜研究成果の学生教育への活用＞

- ・授業名：道德教育と市民社会 A・B
- ・対象：教育学部3年生
- ・授業の形式：ゲスト講師を招いての講義
- ・内容の概要：教育学部附属松本小学校教諭をゲスト講師として招き、「道德の時間」の授業の構成を検討するにあたり、「研究成果発表状況」欄の「報告会・シンポジウム等」の1～3への参加の成果を反映のうえで、子どもがより善く生きようとする想いをどのように支援するかについて学生と考える機会を提供する。

＜研究成果発表状況＞

〔雑誌論文〕(1件)

① 高柳充利・北田愛治(2015)「読み直

される偉人伝と道德教育：布田保之助
を扱った小学校 4 年生の事例から出
発して」信州大学教育学部研究論集, 8,
97-107. (査読なし)

先生(信州大学)・高柳充利(信州大学)、
開催日時：2014 年 12 月 13 日 14:30～
17:00、会場：信州大学教育学部附属松
本小学校研修室

〔学会発表〕(1 件)

- ① Takayanagi, M. (2015)
Reconsidering Moral Education as a
School Subject in Japan: the
Kawai-kundou incident of 1924.
Poster session presented at the 50th
Annual Conference of the
Philosophy of Education Society of
Great Britain, March 26th, 2015,
New College, Oxford, UK.

〔図書〕(件)

- ①

〔産業財産権〕(件)

- ①

〔コラム・記事掲載等〕(件)

- ①

〔報告会・シンポジウム等〕(3 件)

- ① 会議名：「附属松本小 109 年の歴史」
シンポジウム、ゲストティーチャー：高
柳充利(信州大学)、2014 年 12 月 12 日
14:00～14:45、会場：信州大学教育学部
附属松本小学校 5 年西組教室
- ② 会議名：川井清一郎先生について語る会、
話題提供者：高柳充利(信州大学)、開
催日時：2014 年 12 月 12 日 17:00～18:00、
会場：信州大学教育学部附属松本小学校
応接室
- ③ 会議名：木村素衛先生について語る会、
講師：西村拓生先生(奈良女子大学)・
辻敦子先生(奈良女子大学)・河野桃子

松本女子師範附属小学校「川井訓導事件」の国際的検証 ：持続可能な文化的発信力と道德教育

松本女子師範以来の道德教育の実践を、今日的・国際的な視点で再検討。
哲学的思考という無形文化財を児童・保護者・教育者と共に再活性化。

「附属松本小
109年の歴史」
シンポジウム

川井訓導事件を含む
附属松本小学校の歴史を
児童・保護者と振り返る

川井清一郎先生
について語る会

川井訓導事件を通して
附属松本小学校の教員と
道德教育のあり方を討議

木村素衛先生
について語る会

附属松本小学校の
理論的支柱を西洋教育
思想研究者と検討

※松本女子師範附属小学校＝信州大学教育学部附属松本小学校の前身